

様式第 1 号

会 議 録

会議の名称	平成 2 8 年度第 2 回所沢市いじめ問題対策委員会
開 催 日	平成 2 8 年 9 月 2 7 日 ( 火 ) 午後 1 時 3 0 分から午後 3 時
開 催 場 所	所沢市役所 6 0 1 会議室
出席者の氏名	・粕谷治彦・川地康子・小林治・菅野純・齋藤真希子・笹島千代子・島吉孝 ・嶋田洋徳・武弓清貴・福田春美・山口卓男
欠席者の氏名	赤堀侃司
議 題	( 1 ) 1 学期の現状について ( 平成 2 8 年度第 1 回生徒指導調査より ) ( 2 ) 平成 2 7 年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」についての分析 ( 3 ) 各学校の取組について ( 4 ) その他
会 議 資 料	次第 平成 2 8 年度所沢市いじめ問題対策委員会委員名簿 平成 2 7 年版自殺対策白書 ( 抄 ) 所沢市いじめホットライン 所沢市の現状について 所沢市いじめ防止基本方針
担当部課名	教育委員会 教育長 内藤隆行 学校教育部 部 長 田中和貴 学校教育課 課 長 堺 俊彦・主 幹 結城尊弘 副主幹兼指導主事 山下豊・指導主事 伊東真吾 指導主事 菅間信一 安全安心対策推進員 内野正行 安全安心対策推進員 平塚俊夫 生徒指導・いじめ問題対策員 館下正明 ( 欠席 ) 学校教育相談員 金澤広明 ( 欠席 ) 教育センター 教育相談室長 中村啓  - 連絡先 - 学校教育課 04-2998-9238 教育センター 04-2923-2396

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
内藤教育長	委嘱状の交付
結城主幹	開会
内藤教育長	挨拶
各委員・事務局	委員自己紹介並びに事務局紹介
菅野委員長	<p>会議の公開・非公開：公開とする。  会議録の記録方法：要約方式とし、発言者名は公開とする。  会議録の確定方法：委員長の承認により確定する。  以上のことを承認されたい。</p>
全委員	承認
菅野委員長	議題（１）～（３）までを事務局より一括して説明し、その後、質疑応答及び協議とすることを確認
菅間指導主事	<p><u>協議（１）1学期の現状について</u>  平成28年度第1回生徒指導調査より、所沢市の現状について説明。</p> <p><u>議題（２）平成27年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」について分析</u>  平成27年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査より、本市の傾向を分析し説明。</p> <p><u>議題（３）各学校の取組について</u>  資料に基づき、北野小、美原中について説明。</p>
小林委員	児童生徒の暴力行為は、単独のものとグループを組んで行うのではどちらが多いのか。
結城主幹	グループを組んでというのも少しはあるが、多くは子どもがその場での感情のコントロールがうまくいかず、かっとなって暴力行為に及ぶものが多い。
川地委員	不登校の定義はなにか。
中村室長	連続または断続して、30日以上欠席したもの。

川地委員	校門までくれば登校とみなすという話も聞いた。現場では、不登校の数値にこだわるところがある。
中村室長	数にこだわりすぎるのは良くない。校門まで来たのがやがて、教室まで行けるようになる指導が大切である。校門まで行けば出席になるというのは良くない。不登校の目標は社会的自立である。そういうところまで考えて、適切な支援をする必要がある。
小林委員	医者が診断書を書いた場合は、不登校となるのか。
中村室長	診断書を踏まえ、個々の状況に応じて、校長が判断している。
小林委員	なかには、進路に不利にならないように、診断書を求めてくることもあると聞いている。中学は不登校が微増となっているが、実態を反映していないかもしれないと考える必要もある。
菅野委員長	どんな病名をつけるのか？
小林委員	児童神経症的な病名をつけることがある。適応障害、また身体をきたす病名をつけることもある。過敏症腸炎もそうである。
菅野委員長	不登校や病名がついている場合でも、その子がどんなことで苦しんでいるかそれを知り、援助していくことが大切である。
笹島委員	昔は学校に行かないのはおかしいという時代があった。今は、不登校が認められているという感じである。今の親と昔の親、世の中の意識の違いなどを考えたところから、不登校の問題を改善していけたらと考えている。
菅野委員長	不登校は、世の中全体、親の意識や社会的な位置づけも絡んでくる問題でもある。
笹島委員	学校でいやなことがそれを認めて家にいなさいと言って、仕事に出かけてしまう。子どもは居心地のいい自宅で過ごし、ますます学校に行かなくなる。それが継続し不登校も少なからずいる。親が子どもを育てていく最終目標は、社会適応をさせていくこと。社会適応はいきなりはできない。それぞれの発達段階に応じた適応をさせていくべき。
菅野委員長	親が問題を回避して解決を図るということもある。しかし、そのまま行けば社会に出た時におおきなつまずきになる。やはり、将来を見据えて子どもを育てていく必要がある。
笹島委員	新一年生になる保護者相手に話しをすることがあるが、まだ子どもが小さいうちに、子どもが学校に行きたくないと言った時には、優先して先生方としっかりと話し合い、子どもと向き合い納得すれば、行くことができるように

	なる場合もある。そのため小さいうちにしっかりやって欲しいという話をしている。
川地委員	就学援助と不登校は関係あるのか。
結城主幹	データ量が十分でないこともあり、相関があるかどうかは現状ではわからない。
内藤教育長	学力調査などの結果からみると、例外はあるが就学援助の児童が占める割合が多い学校の方が平均的に学力が低く、就学援助の児童が占める割合が少ない学校の方が学力が高いという傾向が大まかではあるが見られるのではないかと思う。
菅野委員長	次に協議に移りたいと思う。今回は、予防について話し合っていきたい。どうすれば、いじめを防ぐことができるのか話し合っていきたい。最初に北野小のいじめ防止の取組の中にソーシャルスキルトレーニングについての話しがあった。ソーシャルスキルトレーニングについて嶋田委員から簡単なレクチャーをお願いしたい。
嶋田委員	ソーシャルスキルトレーニングとは、人間関係が上手くいかないことを性格の問題とせず、人とうまく付き合う技術を学び忘れた、誤って学んでいるととらえ、どういう場面でどのように行動することが結果的に良い適応になるのかを教えていくこと。人間関係がうまくいく技術を学ぶことである。
菅野委員長	ご説明ありがとうございます。質問等ありましたら、この後おねがいします。また、みなさんの中で、ちいさいうちに、芽を摘むことができたなどの事例があれば紹介、ご意見等もいただきたい。
嶋田委員	紹介として、行動ワークというものがある。あやまることは難しい。その時の標語的なものとして「ごめんまりこの法則」というものがある。「ごめん」はまずあやまろう。「まりこ」の「ま」は、間違いをみとめよう、「まりこ」の「り」は、理由を言おう、「こ」はこんどはこうしよう、こうするという意味。こうしてあやまるとあやまっているという感じが相手に伝わりやすいよねと教える。以前はこうしたことは生活の中で自然に身につけてきたことであろうが、今の子ども達の現状を考えるとこうしたことを一つ一つ教えていくことが、現状の改善・予防につながると考えている。
菅野委員長	このことは世代によっても考え方が違う。私や私たちより上の世代は、このようなことは自然と身に付くものと思っている。しかし、それはどこかで学んできたものである。そのことに気付かないと、子ども達に働きかけていくことはできない。学校教育の中に入ってきて、学ぼうねということになればわかりやすい「ごめんまりこの法則」を使ってみると、実際人間関係が変わってくる。その効果をフィードバックしてあげればいい。 お手本になる親のソーシャルスキルというものはありますか。また、親に身につけてもらいたいソーシャルスキルはありますか。

川地委員	親を変えるのはむずかしい。
福田委員	ひとつの例ですが、なかなか親が変わらないことがあった。こちらが働きかけても全然変わらない。そのため、親ではなく子どもに働きかけるようにした。現状が良くないことを子どもに自覚させて、それが今いい方向に行きかけている。
菅野委員長	たしかに、子どもの方が変わりやすい。一つでも二つでも子どもに働きかけて、そこから親に発信していくやり方ですね。私は思うのですが、親に対する要求が高い気がする。親だから社会性が高いというわけではない。われわれもそうだが、社会性の部分についてはみんな発達途上にあると思う。親に要求する時は、高いものではなく、一つでも二つでも変わってもらいたいなあと思ってやっていくと良いと思う。
嶋田委員	親に資質を求めるのではなくて、親自身も学習してくださいという流れになっている。昨日、県教委とのミーティングがあり親が子ども付き合うスキルを学ぼうというプログラムを積極的に作っている。例えば「子どもにどのように宿題をさせるか」「お手伝いをどのように位置づけるか」などがある。これを先輩のお母様方がみたら笑われるような内容だが、今の家庭の教育力を考えたら、もう一度きちんと学んでもらおうと。ではこれをどのような場で行うか。家庭教育学級の中だと特定の保護者しか来ないので、学級活動の中などの教育課程に位置づけて、親子で学んでというように仕掛けてはという話になった。親のスキルではないが、今の親の問題を解決するという具体策を考えていった方がよいのではという流れになっている。
笹島委員	学校で教育講演会をやっても、来てほしい親は来てくれない。多くの人がきてくれるのは、新入学生の説明会である。こうした時に今、おっしゃったことを、時間をとってきちんと伝えていくべきだと思う。また、子どもにはソーシャルスキルトレーニングを入学と同時に教えていく。親子に対して学校が入学時にやっていくといいと思う。
川地委員	ソーシャルスキルトレーニングはどれくらいやっているのか
菅間指導主事	授業で学期に一度ずつ、全校で取り組んでいる。ただ、毎日行っているエクササイズもある。2学期はいじめに特化したソーシャルスキルトレーニングを行っている。
菅野委員長	私が関わっている静岡のある市では、教育講演会を開いても来てほしい保護者が来てくれない。そのための働きかけだとおもうが、家庭学習の仕方の手引きを作って配布している。学び方が具体的に書いてある。ノートの取り方の例などがあり、それを行うだけでもずいぶん違う。そうして親自身も学んでいく手がかりを投げかけておくといい。その延長でしつげとかも入ってくればよりいいと思う。

粕谷委員	PTA の立場で話すと、PTA の活動にきてほしい人には、きてもらえない現実がある。やりたい人はやってくれるが、やる気のない人は役員にあたったとしても来なくなってしまう。世の中も PTA 活動をネガティブにとらえている傾向もある。ただ、いやだと思っていた方が1年後には「やって良かった」という方も多い。色々なタイプの方と出会ってやって良かったという人が多い。そのため、役員改選の時には、「1年後はやって良かった」という方が多いんですよという話しをしている。
菅野委員長	「良かった」という方の具体的な声はなんですか。
粕谷委員	普段話さない方と知り合いになれる。仲間が増えてよかった。また、上の学年の保護者と知り合うと入試の情報などを教えてもらえるなど、子どもの情報に関する事が聞けて良かったという声があった。
笹島委員	先生方の仕事が大変とか有難さのような話しはありますか
粕谷委員	担任の先生だけでなく、校長先生など管理職の先生方とフランクに会話できて良かったという話がありました。
笹島委員	見守り隊の仕事をしていると、小学校の先生方が朝早くから、校庭のラインを引くなどの姿を見ることがある。また、夜も遅くまで仕事をしている。授業以外にも頑張っている姿を特に PTA の方に知っていただいて、いじめが起きたときに PTA の役員などで学校の応援団という形で関わってもらいたい。
粕谷委員	先生方が親身になってやっていただいているというのは、常日頃感じている。それを PTA の役員だけでなく多くの保護者に周知できればと思っている。
川地委員	人権擁護委員の立場からですが、人権作文や SOS ミニレターの中にいじめを受けているものや死にたいと書かれているものもある。そうしたものは早急に学校と連絡を取り合って対応をしています。
嶋田委員	東松山の事件があったが、その後のマスコミ対応が大変であるという話を聞いた。所沢市は、対応手順であるとかマニュアルはあるのか。
内藤教育長	所沢市もかつて事故が色々あり、その経験から対応マニュアルを作成しており、シュミレーションをしている。事件は連鎖する。万が一の対応は準備している。
結城主幹	出席されている方の中で、まだご発言のない方お願いします。
齋藤委員	ソーシャルスキルトレーニングがとても興味深かった。非行防止教室の際にソーシャルスキルトレーニングの話を盛り込むのは良いのではないかと感じた。

嶋委員	<p>学校訪問の際に、相談員さんや先生方がけんかの仲裁の時に「ごめんまりこの法則」をよく使われているなあと感じる。特に上手な相談員や先生は「こ」の部分に力を入れている。そのあとの成長の部分が大切なので、私自身も伺った時にはそのことを伝えていきたい。</p>
山口委員	<p>問題解決には、子どもだけでなく、親の対応も大切。それには担任だけの責任にしないで、組織での対応も大切である。</p> <p>今の世の中、親もいじめという言葉に敏感になっている。そういう中で何を保護者に対して発信していくかが大事だと思う。また、三ヶ島中でいじめ撲滅の全校での集会を行っている。それが長年続いている。そうしたことを通して、子ども達なりに考える場というのが大切になってくると思う。これを繰り返しやっていくことが大切である。</p>
結城主幹	<p><u>議題（４）その他</u>  今後の予定について確認。</p> <p>閉会</p> <p style="text-align: right;">以上</p>